

8月下旬、北軽井沢のシラカバの切り枝にとまったゴジュウカラ（五十雀）です。スズメ目ゴジュウカラ科に属する全長 13～14 センチほどの小鳥で、青灰色の背、白い頬、目を横切るくっきりした黒い過眼線、そして脇腹の淡い橙褐色が美しい鳥です。細長く尖ったくちばしも特徴的で、樹皮の割れ目に潜む昆虫やクモなどを巧みに探し出して食べます。

ゴジュウカラを見ていると、写真のように体をほぼ水平にして、頭を前方へ突き出したポーズをよく見かけます。足指と鋭い爪がたいへん発達しており、枝や樹皮をがっちりとかかむことができます。キツツキ類のように尾羽を幹に突っ張って支えなくてもよいので、木の幹を上だけでなく、横向きになったり、頭を下にして降りたりすることさえできます。この独特の姿勢は、ゴジュウカラらしさがよく表れたものです。

北軽井沢のような針葉樹と広葉樹が混じる森林は、ゴジュウカラに適した環境です。繁殖には樹洞やキツツキの古巣などを利用し、入口が広すぎると泥を塗って自分の体に合う大きさまで狭めるという面白い習性もあります。夏には昆虫などの動物質を多く食べますが、秋から冬には木の実や種子も利用し、樹皮の隙間などに餌を蓄えることもあります。

シラカバの切り枝の先で、今にも幹へ飛び移りそうな一瞬です。小さな体ながら、足元を見ると長い指と鉤状の爪が枝をしっかりとつかんでいるのがわかります。木の幹という垂直の世界を、上へ下へ、時には逆さになって自在に動き回るゴジュウカラ。その生活に適応した体のつくりと身のこなしを、一枚の写真からよく観察できます。

(2026 年 8 月下旬／北軽井沢)

